より洛陽に寓居し、今丑の春、攝州有馬に往來し、路次にて農人の語を聞て、そら豆を多く作るゆへを云れり、たとへば麥を一町作る農夫ハ、其内二反或は三反餘もそら豆を種る事は、其利麥にまさるゆへにハあらず、凡麥作は種付るこやしより後、段々糞を入る事尤多し、又其地こしらへ、初の耕より度々中うち、草かじめ土おほふにいたるまで、萬に人でまの費ゆる事甚多し、されば其考へをよくする時は、たとへば一町の地を三反はあらして、其人でま其こやしを以て、殘る七反の麥を能作り立たるは、一町を皆作りて、段々の手入あしく、其糞し不足したるよりも、麥を取事却て多し、去ながら何國にても、農人のくせにて、妄りにおほく作りちらし、其手入糞し不足すれば、甚損なる事を聞ても、只半反も多く作るを悅ぶならひなれば、各其麥作の反數をへして、殘る田畠によく功を用ひて、慥に利を得る術を勤る事なし、又そら豆は初地ごしらへを少念を入れて、種へ糞をちと加たるもよし、其後四月初引取まで、中うちこやし草かじめなども用ひず、もし草あらば、春になり、一度ざつと、ひきすつるまでにて、人力ついへず、さて右七段の麥に、手入をよくして、糞をましぬれば、彼こやしの不足なる、一町の麥よりも取實多し、其上そら豆中分に榮たらば、三段に六石有べし、少よく出來たらば、八九石あるべし、然ば麥は多く出來、其こゑ人でまを省き、其上又大分のそら豆を作出し、是を以て米の代とし、麥飯に加れば味よく、或はみそとし、又麥もちのあんに入れ、又所により、なら茶に用ひ、樣々食となりて、利を得る事多し、殊に麥に先立て熟し、農人の仕舞よく、又麥より早くいでくる故、凶年には飢を助くるに便あり、此樣々の德分あるゆへ、能作人は其考をなし、そら豆を多く種て、利を得ること少からずと也、されば諸國にても、此事をよく考へ、そら豆を多く作り、其餘力を取て、麥をよく作り立、兩樣の利を以て、粮米の助となすべし、そら豆は大坂に多し、種子を求むべし、

〔毛吹草三〕大和　空菽